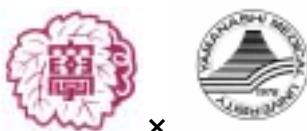


## 新たな知の創造をめざして

山梨大学 伊藤 洋



今、日本の大学構内にはとびっきり手ごわいデーモンが棲んでいるという。18歳人口の減少による大学全入時代が間もなくやって来るという事実、国の財政赤字に伴う高等教育予算の伸び悩みまたは縮減、特に国立大学においてはこれと無縁ではない独立行政法人化への大変革、そして大学生の無気力化と学力不足が指摘されていること、等々がデーモンの正体である。

また、特に医学部にあっては赤字財政とも関係するが国民医療費のこれ以上の高騰を抑制しようとする厚生行政からの圧力などもデーモンのキャラクターの一つに加えることができるかもしれない。

また、教員養成系学部では、持てる学生定員に対して極めてアンバランスな教員需要がなく、そのため卒業生にとっては「大学は出たけれど」状態がいつまでも続いていること、しかもそれが国・地方の教育行政組織間の思惑に翻弄されて解決の道が全く見えないこと、これももう一匹のデーモンなのかもしれない。

いずれにせよ、我が国の高等教育、特に国立大学が置かれている状況は、1870年2月の大学規則制定、1949年5月の国立大学設置法制定以来最大級の変革の時代に直面していると言っても過言ではない。

こういう時代にあたって、旧山梨大学と旧山梨医科大学は2002年9月30日をもって閉学し、翌10月1日、両大学を統合した新生「山梨大学」として再出発した。これは、我が国高等教育史上稀有な例であったから、大いに世間の耳目を集めるところとなった。これが引き金となって、2003年10月には十地域二十大学が統合されることとなっている。

本学の統合については珍しさが先立って、「なぜ統合か」ということについて必ずしも一般社会の理解は完璧ではなかったようである。昨今の銀行の合併と同様、とりあえず規模を大きくしておけば潰されないで済む、だからこれは大学の「生き残り」策だ、などという半可通な解説をする大新聞の論評などがその悪しき一例である。そうではなくて、旧山梨大学・旧山梨医科大学が統合に踏み切った最大の理由は、「知の枠組みの拡張」というに他ならない。

そもそも、この国の大学システムは、130年前、その時すでに長い歴史を持った欧米の大学制度を直輸入する形で創設された。ルネッサンス以来知の拡大を専らとして発達してきた西欧の大学は、当時すでに、それなりの必然に導かれて専門化と分化とを重ねていたのだが、日本は明治に至ってそういう専門分化を既成の事実として輸入したために、分化された形のままで大学組織、特に学部学科組織（当初は単科大学）に学術導入したのである。その結果、電気工学や化学工学は独国に、機械工学はイギリスにそのモデルを求めた。また、医学や音楽は総じて独国に範を採った。文学は英国に原型を求め、美術や工芸は仏国に憧れてそれを輸入した。つまり、創設の当初から専門・分化したものである。その結果、それぞれの学問にはそれぞれの文化や専門用語が使われ、学問分野ごとに異なる言語文化を有して、諸学間の交流と対話は難しく、日本の大学制度と高等教育は「象牙」の塔ではなく「バベルの塔」を形成してしまったのである。

よく言われるドイツ語の「Aufheben」は、日本語では「止揚」と訳し、ヘーゲルの弁証法哲学導入のための「学術用語」としてのみ導入されたのであるが、Aufheben そのものはドイツでは肉屋にあると殺肉をぶら下げておく金具のことだという。元来、科学技術は西欧的二元論の世界では、聖俗分離の中の「俗」に分類され、それゆえに俗語がアカデミズムに入り込んでいくのに対し、この国では「学術」を「聖」として受け入れたから、世俗的用語と学術とをしっかりと分節したのである。それゆえに、直輸入された諸学はそれぞれの専門分野ごとに「日本化」がなされ、結果的に諸学間を結節する日本語によるコミュニケーションを不能化したのであったろうと思われる。

「新生」山梨大学は、このような文化の違いを越えて学の統合を図り、そこから新たな学問領域を創造しようという目標に向かって出発した。その具体的な第一弾として、既存の大学院医学研究科と工学研究科を廃止して、新たに「医学工学総合研究部・教育部」という大学院部局組織を本年4月1日に創設した。山梨大学の部局化は、国立大学としては東京大学に適用して以来19番目にあたる。また、医学と工学という組み合わせで大規模に学際融合に踏み込んだ例は我が国ではこれをもって嚆矢とする。

これは、医学と工学を掛け合わせる（たし合わせるのではなく）ことによって、新種の学問を創生していこうという目論見である。これによって、山梨大学現医学部・現工学部と教育人間科学部の一部は、「医学工学総合教育部」において、工学技術のプロであって先端医療活動や医療技術に従事したり、生命倫理を体得した医者や看護師であってかつ工学技術のエキスパートであったりする高度専門職業人を養成することとしているのである。

蛇と出るかヘビと出るか、新生山梨大学のこの挑戦に、山梨科学アカデミー会員の絶大なご支援を切にお願いしたい。

